

一般社団法人  
兵庫県病院協会

# 会報

● 発行 ●  
一般社団法人兵庫県病院協会  
〒651-0086  
神戸市中央区磯上通  
6丁目1番11号  
兵庫県医師会館7F  
TEL (078) 251-3030  
FAX (078) 251-3011  
会報編集委員会  
印刷 株式会社 七旺社



# 目次

## — 巻頭言 —

情報の非対称性と爆破予告

(一社) 兵庫県病院協会副会長 学校法人兵庫医科大学 理事長 太城 力良 ..... 3

## — 随筆 —

コロナ禍の専門医

(一社) 兵庫県病院協会理事 (一社) 日本海員救済会 神戸救済会病院 病院長 藤 久和 ..... 4

新型コロナウイルス感染症 ～当院のこの1年半～

(一社) 兵庫県病院協会副会長 地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 理事長・病院長 大西 祥男 ..... 6

＝ 第7回定時総会 開催報告 ＝ ..... 7

## ＝ 会長就任のご挨拶 ＝

(一社) 兵庫県病院協会会長 社会医療法人甲友会 西宮協立脳神経外科病院 理事長 大村 武久 ..... 8

## ＝ 役員就任のご挨拶 ＝

(一社) 兵庫県病院協会副会長 国立大学法人神戸大学 神戸大学医学部附属病院	前院長 平田 健一	..... 9
(一社) 兵庫県病院協会理事 神戸赤十字病院	病院長 山下 晴央	..... 9
(一社) 兵庫県病院協会理事 兵庫県立こども病院	病院長 飯島 一誠	..... 10
(一社) 兵庫県病院協会理事 医療法人社団六心会 恒生病院	理事長 古瀬 繁	..... 10
(一社) 兵庫県病院協会理事 兵庫県立丹波医療センター	病院長 西崎 朗	..... 11
(一社) 兵庫県病院協会理事 兵庫県立淡路医療センター	病院長 鈴木 康之	..... 11

＝ 第4期役員名簿 ＝ ..... 12

## ＝ 会員病院紹介 ＝

兵庫県立ひょうごこころの医療センター 病院長 田中 究 ..... 13

## ＝ 編集後記 ＝

(一社) 兵庫県病院協会 事務局 ..... 16



〈表紙の写真〉

## 神戸布引ハーブ園 (神戸市)

神戸市中央区にある植物園である布引ハーブ園は約200種7万5000株の花やハーブが咲き集う日本最大級のハーブ園です。テーマの異なる12のガーデンには、四季折々、様々な花やハーブが咲きます。ハーブに触れて活用法を学ぶハーブガイドツアーや、好きな香りでサシェ(香り袋)を作る体験を行うこともできます。

ハーブ園へはロープウェイで上り下りすることができます。新神戸駅から、ロープウェイ神戸夢風船に乗り約10分で山頂駅に到着します。道中、神戸の街並みを眺めながらの空中散歩を楽しめます。海と山の距離が近い、神戸ならではの美しい景色を満喫してみてください。



## 巻頭言

情報の非対称性と  
爆破予告

(一社)  
兵庫県病院協会 副会長  
学校法人兵庫医科大学  
理事長 太城 力良

理論経済学者ケネス・アローは1963年に米国経済学会誌に「Uncertainty and the Welfare Economics of Medical Care」を發表し、医師と患者との医療に対する情報の非対称性が、医療保険の効率的運用を阻害することを指摘しました。一般には、「売り手」のみが専門知識と情報を有し、「買い手」はそれを知らないように、双方で情報と知識の共有ができていない状態を情報の非対称といいます。医療でのセカンドオピニオンや、株式のインサイダー取引の禁止などはこの格差を小さくする試みです。また、買い手側自身もSNSやネット、消費者団体の商品調査などの情報公開・共有をして、情報の対象性の確保を目指す傾向にあります。

2020年以來のCOVID-19感染症により人々は自由な行動に制約を受けストレスを蓄積しています。一方、家庭内のPC端末からインターネット環境に接続する時間は飛躍的に長くなり、これを反映してか、2020年6月頃から大学、自治体などを標的とした爆破予告のニュースが急激に増えてきました(2020年11月に犯人逮捕)。私どもにも10月初めに警察より、本学を含む二大学と多数の公立小・中学校、複数の市役所に対する爆破予告が、市へのご意見欄に投稿されたと連絡がありました。この対応として、以下の方法が考えられました：

(1) 学生・教職員・関係者の安全を最優先に考え、敷地内を立入禁止にして授業は休講とすることをホームページなどで公表する。

- (2) いたずら予告として無視し情報は職員の一部に留め、通常業務を行い、教職員や関係者にも通知しない。
- (3) 爆破予告があったことを全学生・教職員にホームページを含めて公開し、注意喚起を促すと共に警察には警備の強化をお願いして、通常授業と診療を行う。

(1) の対応をとったのは大学が多く、その数は当時で100校を超えていました。COVID-19感染症対策でWeb講義をしていた大学でさえ、休講にすることもありました。マスコミも大きく報道し、その情報は数多くの一般人まで知ることになりました。大学への爆破予告の頻度が増え始めた6月以降、当初はすべての大学がこの対応をしたものと思いますがその後4カ月を過ぎても、念には念を入れて敷地内立ち入り禁止にする大学も週に2、3校はありました。

(2) のいたずら予告として無視した大学がどれだけあるか正確な数は、公的機関が全国調査でもしない限り分からないし、一般人は知る由がありません。本学への爆破予告の報告後すぐに親交のある大学に対応を問い合わせると4大学中3校は無視され、1校は学内立入禁止にされていました。

(3) の対応は、爆破予告の頻度が増した10月以降にみられるようになりました。われわれもこの方法を取りホームページ上にも公開し注意喚起を呼び掛けると共に病院も含めて通常業務を行いました。そうすると、(1) の報道に数多く曝されている保護者や事務職員の一部から「人命軽視」とお叱りを受けることになりました。

危機管理サービスを行う民間会社ではSNSに投稿されたデマや誤情報の判定、情報の重要性の評価などを、AIで解析するとともに、24時間対応の専門チームによる情報の精査・分析も合わせて行うことで、緊急時に現場の最前線で働く方々が情報に惑わされることのないよう、万全のサポート体制を敷いているものがあります。現場でいたずらと無視してなんら反応しない情報はこの会社の解析に組み入れられないので、その会社の評価

精度は低下します。まずは警察などの相談窓口がこれらの会社と協働して、無視情報まで収集できる体制が出来れば情報の非対称性は軽減され、その判断の精度は上がると思います。今回の主題とは離れますが特殊詐欺として電話を切るだけでなく、その情報を各自が警察に知らせると犯人逮捕の確率は上がるでしょう。

個人や社会集団を混乱・パニックに陥れる様な行為を行い、その反応を楽しむことを目的とした愉快犯に対しては無視するのが一番ですが、愉快犯による犯行か本当のテロなのかを区別するのは難しいことです。愉快犯への過剰な反応は愉快犯をますます愉快にってしまうだけでなく、何も知らない視聴者の不安を煽り、必要以上に騒ぎを大きくしてしまう為、避けた方がいいと思います。何も言わずに警察に通報し、上述したようなAI解析して真偽を評価する会社と警察が協働するシステムがあり対応まで指南してくれればありがたいと思います。誰もが、万一、予告が本当で被害が出た時の責任を取りたくないのも、大きく反応した対策をとってしまいがちなのが世の常ですが、無視した情報も集めて解析する公的システムができればありがたいと思います。



## 随筆

# コロナ禍の専門医



(一社) 兵庫県病院協会 理事  
(一社) 日本海員救済会  
神戸救済会病院  
病院長 藤 久和

『先生は循環器なのですね。』6月に入ってコロナの第四波が落ち着こうとしている状況で、事態を収束させようと新型コロナのワクチン業務の間診を行っていた際、備え付けてある名札をみて一人の患者さんが言いました。『後で副作用を起こした際は誰に相談すればいいのですか？この病院に専門医はいるのですか？このワクチンはどこの会社のワクチンですか？』と不安そうに矢継ぎ早に尋ねるのです。

当院には感染症専門医はいませんが、コロナ禍での対応として、コロナ患者の入院の受け入れや発熱外来も行っています。私自身、医学部を卒業して以降、一般的な臨床研修はそこそこに、循環器内科医として、また循環器専門医としての研鑽を積みながら医療に携わってきました。循環器疾患患者に対して、循環器医としてはまだまだ未熟であっても、よりよい医療の提供を目指して専門書を読み、学会出席を行いながら自分たちで診療を行ってきました。しかしながら、非専門分野は他科に紹介するとの方針であまり興味も持たなかったことも事実です。もちろん病院内には他診療科の先生（専門医）が常駐しており、紹介して診療していただくのが若い医師にとっては当然であり、『私は診られません。〇〇科を受診してください。』と突き放した事もありました。この様なことは私だけでなく世間一般の病院でも多くあったのではないかと思います。

しかし、その私が現時点ではワクチン接種やコ

コロナ診療を行っています。昨年のコロナ感染が拡大した時点では、新型コロナウイルスの病態がよくわからない状況で、一般診療を行っている医師と新型コロナウイルス患者を診察する医師を区別して診療にあたることは、院内感染拡大防止としては重要だと判断し、当院で新型コロナウイルスを診療する医師は救急・総合診療科の医師と私で担当するようにしました。

現時点ではある程度の予防策も明らかになってきており、感染予防をしっかり行えばむしろ医療現場での個々人は守れるように思われる状況と考えますが、やはり医療現場ですら感染に対する過度の恐怖感や不安感をもっているスタッフは多くいます。医師でもコロナ患者に気管内挿管することはもとより、診療すら腰が引ける状況です。ましてや一般の患者さんはやはりこのパンデミックの状況であっても、診察を受けるのであれば『専門医』という意識が強いのも致し方ないのかなと思います。ワクチンの接種は専門医でなくても可能ですよと、アナフィラキシーに対する対応や後遺症の保証制度、副反応の発生頻度などについて説明し、同意を得てこの患者さんにはワクチン接種していただきました。

超高齢社会に備え2014年に成立した医療介護確保推進法により地域医療構想が制度化され、地域医療構想調整会議を設置し、その動向に戦々恐々としていたところ新型コロナウイルスのパンデミックが発生しました。ここ一年、現場での病床不足が地域の保健所との対応に悪戦苦闘を行いながら何とか終息に向けて努力してきたつもりです。しかし、新聞報道などでは世界一病床数が多い日本でなぜコロナ患者の入院受け入れがうまくいかないのか、民間病院での受け入れ数が少ないのはなぜかなどの病院批判や保健所の対応についての問題が上がってきました。しかし、私たち医療現場はそうやすやすとソフト及びハード面でも変更できない現実があります。

コロナ禍にあって、最も苦勞したのは病院や医療に対しての医療従事者や患者の認識の違いです。専門医ひとつとっても、各学会が推進してきた専門医制度は専門性を重視するあまり、社会の現状やニーズとかけ離れていたように思います。

巷では多疾患を有し、介護の力を借りなければ通院も困難な高齢患者が増大し、またいわゆる common diseaseでも、大きな病院で入院して治療を希望する状況が続いております。また家族はACPは希望されず、医師自身も退院調整や医療外の問題への意識は希薄であります。

厚生労働省はこれまでの地域医療構想に加え感染症対策を盛り込んだ形で政策を進め、更なる効率的な医療体制を実現することを考えています。今回の予算でも『地域医療構想、医師偏在是正、医療従事者の働き方改革の推進等』は1021億円(第三次補正3.6億円)を計上、地域医療構想の実現に向けた地域医療介護総合確保基金による支援が851億円。このうち病床機能再編成支援は全額国費で195億円と大幅積み増しを行い、自主的な病床削減や病院統合による病床廃止に取り組みに対しての財政支援や勤務医の労働時間短縮の推進に98億円の割り当てを行っています。『組織マネジメントの改革推進』には8億円、『医療機関への上手なかかり方の国民への周知啓発』は2.2億円とこれで国民や医療従事者の意識や気持ちを変えるにはあまりにも心もとない感じがします。私達がいかに社会の変化に対応して意識を変えていけるか、病院の運営をスムーズに進めていくうえで重要と考えます。

先ほどのワクチンを接種した患者は、『先生ありがとう。これで社交ダンスの先生と踊れるわ。』と言いながらワクチン会場を出ていきました。





## 新型コロナウイルス感染症 ～当院のこの1年半～



(一社) 兵庫県病院協会 副会長  
地方独立行政法人加古川市民病院機構  
加古川中央市民病院  
理事長・病院長 大西 祥男

2019年12月31日、中国武漢からWHOに肺炎のクラスターの報告がなされて1年半が経過する。新型コロナウイルス感染症は世界中に広がり、1億7,000万人を感染させ、350万人を超える命を奪った。日本では諸外国に比べると感染の拡大は緩いがこれまでに感染者数は76万人、1.3万人以上の死亡が確認されている。

当院では、これまでに新型コロナウイルス感染症418名（うち妊婦24名、子ども58名）の入院、約4,500名の帰国者接触者外来患者を診療し、院内での抗原検査や遺伝子検査などは18,000件（2021年5月末時点）実施してきた。振り返ると、未知のウイルスへの対応に追われた最初の数ヶ月は、毎日が手探りの日々であったように思う。

2020年1月、感染対策室がマスク等の衛生材料の備蓄確認を始め、将来の欠品も予測しマスクの確保、全部署のマスク払い出し管理を開始した。2月には、発熱問診テントでトリアージ、外来者に対する検温や面会制限の強化、電車通勤者へのマスク配布と全職員のマスク着用、旅行や懇親会の自粛、制限など、職員への周知に追われた。3月13日には加古川で1例目が発生し身近にコロナの存在を意識し、職員および委託業者の健康管理と全部署の体調不良者の一元管理、新規採用予定者へのリスク行動調査、健康チェックなどに神経を尖らせて新年度を迎えた。

4月になり月曜日の朝、ある職員より電話が入った。「娘が熱発しており、自分はどうもないが、どうしましょう」と。自宅待機を指示し経過をみてもらったところ、数日後に娘がPCR陽性と判明

した。娘は入院となり、本人は症状もなく経過したが、自宅待機6日目に発熱しPCR陽性が判明した。当院職員でのコロナ感染症第1例目である。院内に濃厚接触者はなく院内感染に至ることはなかったが、以来職員の家族までを含めた健康チェックを実施することとした。

県立加古川医療センターがコロナの拠点病院として位置づけられ、コロナの重症例に対応する方針となった。地域の医療提供体制を考慮し、当院の役割はコロナに関しては中軽症6床の入院と帰国者接触者外来とし、救急ならびに緊急手術や悪性疾患の手術などを通常通り実施する事とした。熱発患者の救急対応や緊急手術では短時間でのコロナの診断が求められるため、急いで遺伝子検査装置を購入し院内緊急検査として活用した。4月30日からは術前患者のPCR検査を開始し、これまでに予定入院・術前患者の遺伝子検査で4例が陽性となり入院・手術を中止している。第1回目の緊急事態宣言が解除され一旦落ち着いたが、その後第2波、そして2020年の年末から第3波が押し寄せコロナ病床を26床へ増床した。3月中旬よりの第4波では変異株の発生とともに患者数は急増、妊婦の入院が増加、比較的若年の重症化例も多く、挿管やネーザルハイフローの必要な症例が目立ってきた。県内の病床が逼迫し、ゴールデンウィーク直前に病床を重症2床、中等症38床併せて40床にまで増床したが、満床の日々が続いた。第4波の勢いは止まらず3回目の緊急事態宣言も延長され、東京オリンピックの開催も危ぶまれているところである。

当院の新型コロナウイルス対策本部の下には帰国者接触者外来チーム、入院診療チーム、救急・集中治療チーム、検査チーム、診療支援チーム、資機材管理チームが各々責任を持って活動している。そして、もう一つユニークな「新型コロナ職員応援チーム」がある。某診療科の女性部長とナース3名、事務職員1名の5名がメンバーで、ICTとともにPPEの着脱、N95のフィッティング確認を医師や看護師に対して実施し、各部署ラウンドでは休憩室などの感染対策の相談や対応に困っていることをICTや病院幹部へ連絡し、解決策を現

場へとフィードバックしてくれている。また、感染対策啓蒙ポスターやコロナウイルスのイラストが描かれたシールを作成し、院内の目に止まる所に貼り注意喚起してくれている。エレベーターのドアや階の表示ボタン横のシールには「悪気はないけどあなたの目、鼻、口がスキなんです」、パソコンの脇のシールには「ここにもいたらごめんなさい、パソコンを触ったら、手を洗うか消毒してね」とコロナウイルスが眩くイラストを目にした時は、ポケットからアルコール消毒を取り出し手指消毒することが習慣になってしまった。

加古川市民病院機構が発足して10年、新病院が開院して5年という節目の年がコロナに翻弄される年になるとは想像もしていなかった。新病院開院の際には職員一丸となって開院の準備に追われ、無事に立ち上げることが出来た。再び職員一

丸となって「コロナ禍の中、自分がすべきこと」をしっかりと捉えて取り組んでくれた結果、今があるのだと思う。高齢者への集団接種も始まった。ファイザー社製に加えモデルナ社製、アストラゼネカ社製も承認された。大規模接種会場での接種も開始され、職域接種を始める企業も多く現れてきた。すべての職員の奮闘に感謝すると共に、ワクチン接種が加速し1日も早いコロナの終息宣言を願うばかりである。

この度、兵庫県病院協会大村会長より副会長にご指名いただきました。微力ではありますが、会員の皆様ならびに兵庫県病院協会の発展のために尽力してまいります。どうぞ、よろしく願いいたします。

## 第7回定時総会 開催報告

令和3年6月26日（土）に、一般財団法人兵庫県病院協会の第7回定時総会が兵庫県医師会館で開催されました。

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、例年総会終了後に実施している兵庫県知事感謝及び永年勤続病院職員表彰式及び記念講演会の行事は行わず、規模を縮小し、総会のみで開催となりました。

定刻の午後1時30分に事務局から、会員総数186名に対し出席22名委任状による出席者144名で合計166名の出席となり、会員の2分の1以上の出席という定款の総会定足数を満たしており、総会が成立していることが報告されました。

大村副会長の開会宣言に続き、守殿会長から新型コロナウイルス感染症への対応状況や2年ごとの役員改選の総会である旨の挨拶がなされました。

定款の規定により、守殿会長が議長となり、議事に入りました。令和2年度事業報告、令和3年度事業計画、令和3年度収支予算について、大村副会長から報告がなされ、異議なく承認されました。

続いて議案審議となり、第1号議案「令和2年

度収支決算について承認を求める件」について、太城副会長から説明、佐藤監事から決算審査報告があり、諮ったところ全員一致で異議なく承認されました。

第2号議案「第4期理事及び監事の選任の件」について、本総会において令和5年総会時までの理事及び監事を選任する必要があることが説明され、候補者の紹介がなされたあと採決に移り、異議なく全会一致で承認されました。

第3号議案「名誉会長及び顧問の選任の件」について、総会の承認を得て会長が委嘱する等の説明があり、守殿貞夫名誉会長、中村肇顧問、藤原久義顧問が異議なく全会一致で承認されました。

予定の審議は全て終了し、杉村副会長から定時総会の閉会の宣言がなされました。

総会終了後、第4期役員による臨時理事会が開催され、定款第25条第2項の規定による会長、副会長の選定が行われ、会長に大村武久理事、副会長に太城力良理事、澤井繁明理事、大西洋男理事、平田健一理事が選ばれました。

## 会長就任のご挨拶



### 会長

社会医療法人甲友会  
西宮協立脳神経外科病院

理事長 大村 武久

この度、令和3年6月26日の一般社団法人兵庫県病院協会定時総会・臨時理事会におきまして、会長に指名いただきました社会医療法人甲友会理事長の大村武久でございます。

兵庫県の医療連携と兵庫県病院協会の皆様のため、精一杯努力する所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

現在も対応に難渋しております新型コロナウイルス感染症は、兵庫県では昨年3月1日に第一感染者が発生して以来、1年3ヶ月で累積感染者数が41,000人を超え、今後第5波の到来が懸念されている状況です。第4波のピークである4月24日頃には629名の陽性者が確認された上、新型コロナウイルス感染症対応の病床使用率は80%を超え、重症者の受け入れが困難となりました。7月5日現在では、病床使用率は10%ほどになっていますが、デルタ株の感染拡大リスクもあり予断を許さない状況であると思います。6月末からの1週間の感染者数は第4波の入口であった2月末から3月初めと同程度で、第4波の場合はそれから2ヶ月後の4月末にピークとなっています。ここから推測しますと第5波のリスクが見えてきますが、違いは第4波の主流がアルファ株であったのに対し、今回は感染力の強いデルタ株が主流になる可能性が高くなっている点です。ただし、ワクチン接種が特に高齢者の間で進んできており、これによる感染拡大の一部防止や、中等症以上の患者数の減少も少しは期待できるかもしれません。この1年3ヶ月間、兵庫県病院協会の会員病院の皆様が新型コロナウイルス感染症に対し献身的に

多くの労力と時間を提供されていることに心より感謝申し上げますと共に、今後とも御協力のほどよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の回復期患者の受け入れについてですが、兵庫県民間病院協会、兵庫県病院協会協同で「新型コロナウイルス感染症回復者支援窓口」を令和3年2月3日に開設し、6月現在218病院の登録（民間病院協会167件、病院協会51件）がありますので御利用いただければ幸いに存じます。

兵庫県病院協会は前会長である守殿先生のリーダーシップの下、国の政策である地域医療構想の実現に向け、2015年より調整会議など様々な会議や講演会開催により会員の皆様をはじめ医療関係者の皆様に理解を深めていただくよう活動してまいりました。コロナ禍で活動を中断していましたが、今後、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、各医療圏での5疾病6事業の進展に向け努力していく所存でございます。

兵庫県の2次保健医療圏域は以前は10圏域ありましたが、平成29年8月に実施された患者流出入調査の結果、8圏域に設定されています。この8圏域は都市部から過疎地まで様々な地域であり、地域毎に医療事情は様々です。それぞれの圏域での地域医療構想の策定に向け、調整会議等を今迄も開催してきましたが、まだまだ先は見えていません。調整会議では公的・公立及び民間病院の代表が集まり、お互いの理解は以前より深まったと感じております。今後地域医療構想を更に進展させるためには、公的・公立及び民間病院がより連携を深め、地域医療の効率化と質の向上を図る必要があると思います。会員の皆様の御指導と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

時節柄、会員の皆様におかれましては病院運営に大変御苦勞されておられると思いますが、くれぐれも御自愛いただきますようお願い申し上げます。



## 役員就任のご挨拶



### 副会長

国立大学法人神戸大学  
神戸大学医学部附属病院  
前院長 平田 健一

この度、兵庫県病院協会の理事・副会長を仰せつかりました平田健一です。平成19年から神戸大学循環器内科学の教授を拝命し、また平成30年より3年間神戸大学病院の病院長を務めました。

神戸大学医学部附属病院は、患者中心の医療の実践を基本理念の第一に掲げ、優れた医療人の育成、先進医療の開発と推進に努めてまいりました。また、面積の広い兵庫県において、安定した地域医療や救急医療を提供することは重要な課題であり、多くの関係病院の皆様と連携し、地域医療を守ってきました。

現在、専門医制度機構のもとで新専門医制度が開始され、同時に医師の偏在を解決するため、各都道府県に専門医プログラムの定員にシーリングが設けられるなど、若い医師のキャリアパスは大きく変化してきています。また、医師の働き方改革が目前に迫っており、病院経営とともに多くの困難な課題への対応が求められています。さらに、昨年春からCOVID-19の感染拡大に伴い、医療体制の危機的状況を経験して、病院間の連携の重要性も痛感しています。このような状況において、兵庫県病院協会の果たす役割は非常に大きいと思います。

兵庫県の医療、地域医療のために、兵庫県病院協会の活動に少しでもお役に立てるよう努めてまいりたいと思います。どうぞよろしく願い申し上げます。



### 理事

神戸赤十字病院  
病院長 山下 晴央

この度、兵庫県病院協会理事に就任させていただきました神戸赤十字病院の山下晴央でございます。平成18年に兵庫県立柏原病院（現兵庫県立丹波医療センター）から神戸赤十字病院に赴任し、脳神経外科部長（兵庫県災害医療センター兼任）、副院長を経て、平成30年4月より院長を拝命しました。

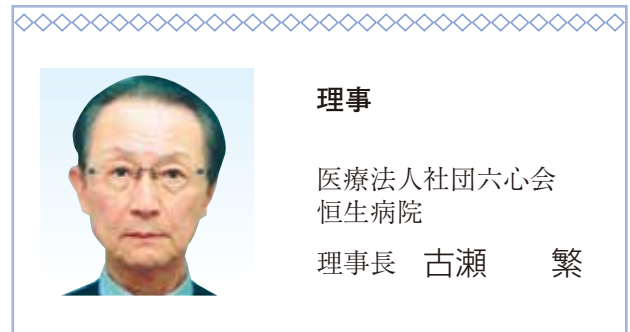
神戸赤十字病院は旧神戸赤十字病院と須磨赤十字病院が統合されて、平成15年8月1日兵庫県災害医療センターに隣接してHAT神戸に開院しました。診療機器や診療体制を整備し、地域医療機関と連携しながら、急性期を中心とした医療を提供して18年経過しています。赤十字病院は、日本赤十字社の人間のいのちと健康・尊厳を守る使命を基に行動することが求められていますので、「わたしたちは、医の倫理と人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの健康に奉仕いたします」を基本とし、「地域から選ばれる病院、職員が働いてよかった病院」を病院の経営理念としています。

地域医療支援病院として、地域に根付くことを目標に診療にあたってまいりましたが、昨年の新型コロナウイルス感染症は当院に大きな衝撃を与え、様々な問題点を明らかにしました。院内クラスター発生から現在の感染に対処する病院運営に至るまでの様々な変化が現実に残っています。まだまだ安定した運用ができず、新たな対応と今までの診療をどう両立させていくのか、住民の方々の受診状況も変化していく中、試行錯誤が続いています。

医療を取り巻く環境が不透明感を増していますが、兵庫県病院協会の皆様と相談、協力させて頂いて、変化に対応し、これからの地域医療を支えていきたいと考えています。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

**理事**

兵庫県立こども病院  
 病院長 飯島 一誠

**理事**

医療法人社団六心会  
 恒生病院  
 理事長 古瀬 繁

この度、中尾理事の後任として兵庫県病院協会理事を拝命いたしました飯島一誠です。私は、平成14年4月より、国立成育医療センター（現、国立成育医療研究センター）で腎臓科医長として務めた後、平成20年4月より、母校である神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども発育学部門の特命教授として、平成23年11月からは同小児科学分野教授として、小児科学の教育・研究・診療に従事し、令和3年4月より、兵庫県立こども病院院長に就任いたしました。微力ではありますが、協会の発展のために、また、兵庫県の病院医療や地域医療に貢献できるよう努めて参る所存です。

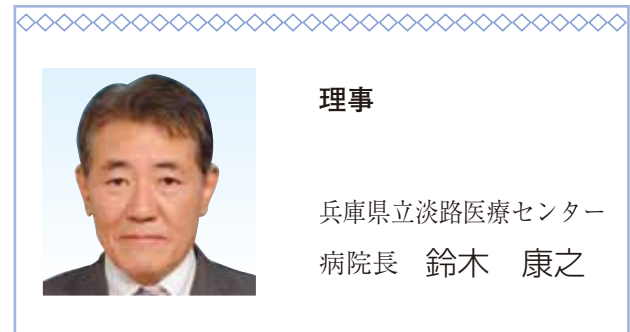
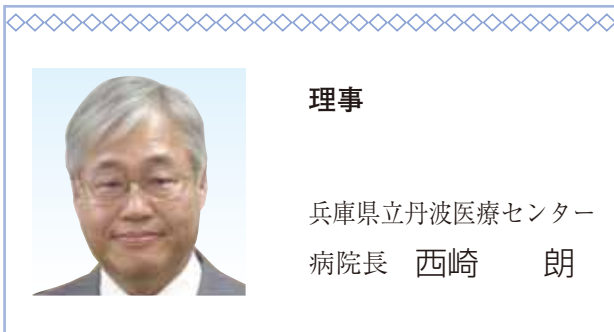
兵庫県立こども病院は、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、小児がん医療センター、小児心臓センターなどを中心に、こどもとご家族を支える“最後の砦”として、24時間体制の診療を行っております。また、小児がん拠点病院として、隣接する神戸陽子線センターと連携し、全国から対象患者を受け入れ、より高度な小児がん医療を展開しています。さらに、兵庫県アレルギー疾患拠点病院として、難治性アレルギー疾患に対する最新の医療も提供しています。加えて、未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases, IRUD）地域拠点病院である神戸大学の協力病院として、染色体や遺伝子に原因があるさまざまな病気を持つ患者さんの診療や遺伝相談などにも力を入れております。

我々は、小児・周産期医療のプロフェッショナルとして、最新・最良の医療を提供するだけでなく、いまだに原因も分からず治療法もない難病に苦しむ子どもたちやそのご家族に明るい希望を与えられるような研究も行っていきたいと考えています。

今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、宜しくお申し上げます。

この度、理事に就任しました古瀬です。昭和51年神戸大学卒業です。恒生病院は1984年に設立され、その後1988年に法人化されて今日に至っています。私は第3代理事長として2011年に就任しました。恒生病院は神戸市北区に位置し、脳神経外科を中心とした救急医療および回復期リハビリテーションを主として行っています。経営理念は「誠実な医療・介護を通じて社会に貢献する」で、誠実という言葉を大切にしています。六心会としては恒生病院以外に「伊丹恒生脳神経外科病院」、「恒生かこの病院」、「介護老人保健施設エスペランサ」等を運営しています。

今回コロナ禍でネット上やマスコミから医師会、民間病院は大いに叩かれました。一部事実誤認やデマなどがありましたが、我々病院経営者にとっても医療の非効率性、病院の役割分担の必要性・重要性などを再度認識することになりました。先日発表された「経済財政運営と改革の基本方針2021」において、今般の感染症対応での経験を踏まえ、地域医療における役割分担の明確化、地域医療連携推進法人の活用などによる病院連携強化や機能強化・集約化の促進、さらにはオンライン診療の活用など、所謂ニューノーマルにおける医療に関して提言されています。これらを考えると今後ますます病院協会の機能を充実し、地域住民の意見に耳を傾け、これまで以上に医師会、行政との対話を進めていく必要があります。私も中小民間病院の立場から貢献できればと考えています。



この度、秋田理事の後任として兵庫県病院協会の理事に就任させていただきました兵庫県立丹波医療センターの西崎朗と申します。

兵庫県立丹波医療センターは、2019年7月1日に柏原赤十字病院と兵庫県立柏原病院とが統合再編してできました新しい病院です。「医学教育で勝負する」を合言葉に、若手医療者とともに学び育つ医療機関として発展してきました。丹波市立看護専門学校・丹波市健康センターミルネと隣接し「ハイブリッド・メディカルコンプレックス」を形成しています。未病や健診から救急医療・急性期医療・高度専門医療そして緩和ケアや在宅医療まで地域医療に必要な機能を兼ね備えています。地域医療のオンリーワンの病院として、丹波医療圏域を中心に病院の理念である「世界標準の医療を提供する」ことを行っていきます。

昨年度は、兵庫県立病院として、阪神間から姫路たつのまで県内幅広く、多数のCOVID-19患者を受け入れてきました。改めて兵庫県の病院間の連携の重要性を認識しているところです。

微力ではありますが、今後とも皆様と情報を共有し連携をとりながら、地域医療ひいては兵庫県の医療に貢献できれば考えております。

ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

この度は兵庫県病院協会の理事にご選任いただき有り難うございます。私は昭和58年神戸大学を卒業し、平成18年より約15年間は香川大学消化器外科学を主宰しておりました。定年まで2年を残しての異動でしたが、残りのキャリアで故郷兵庫県の医療に尽力したいとの思いがあり、令和3年4月1日付で兵庫県立淡路医療センターに着任いたしました。着任早々、新型コロナウイルス感染症に翻弄され、一時は淡路島も医療崩壊「救える命を救えない」状況の一手手前まで行きましたが、現在はやや落ち着きを取り戻しました。

当センターは26の診療科と病床441床を有する淡路島では唯一の公立病院で、多くのCommon diseaseの診療を担う傍ら、あらゆる難治性疾患や重症外傷においても島内で診療を完結することを目指しています。コロナにおいても全ての患者を当センターで受け入れおりましたが、第4波の最盛期は島内他院にも一部協力いただき、高齢者の多い地域性ゆえに長年培って来た地域連携が有効に機能いたしました。

今後もチーム医療、救急医療、がん集学的医療、先進医療、個別医療などを駆使し、これまで以上に「高度で良質な医療」を提供するセンターとして、スタッフ一同「Slow but Steady」ゆっくり着実に前進したいと思っています。協会の皆様とは密に情報交換や連携を行い、微力ではありますが地域の医療に貢献できればと考えておりますので、ご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 第4期役員名簿 (令和3年6月26日～令和5年6月総会)

会長 (代表理事)	大村 武久	社会医療法人甲友会 西宮協立脳神経外科病院 理事長
副会長	太城 力良	学校法人兵庫医科大学 理事長
	澤井 繁明	社会医療法人愛仁会 明石医療センター 名誉院長
	大西 祥男	地方独立行政法人加古川市民病院機構 加古川中央市民病院 理事長・院長
	平田 健一	国立大学法人神戸大学 神戸大学医学部附属病院 前院長
理事	西 昂	医療法人康雄会 西病院 理事長
	木原 康樹	地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院 院長
	山下 晴央	神戸赤十字病院 院長
	飯島 一誠	兵庫県立こども病院 院長
	細見 和代	医療法人尚生会 湊川病院 理事長
	松本 圭吾	独立行政法人地域医療機能推進機構 神戸中央病院 院長
	古瀬 繁	医療法人社団六心会 恒生病院 理事長
	高橋 玲比古	医療法人社団さくら会 高橋病院 理事長・院長
	藤 久和	一般社団法人日本海員掖済会 神戸掖済会病院 院長
	平家 俊男	兵庫県立尼崎総合医療センター 院長
	橋本 創	医療法人旭会 園田病院 理事長・院長
	里中和 廣	独立行政法人国立病院機構 兵庫中央病院 院長
	岩井 正秀	西脇市立西脇病院 院長
	井上 喜通	医療法人社団緑風会 龍野中央病院 理事長・院長
	藤井 隆	赤穂市民病院 院長
	三輪 聡一	公立豊岡病院組合立 豊岡病院 院長
	西崎 朗	兵庫県立丹波医療センター 院長
	鈴木 康之	兵庫県立淡路医療センター 院長
監事	栗原 英治	社会医療法人順心会 順心病院 理事長
	佐藤 四三	姫路赤十字病院 院長
名誉会長	守殿 貞夫	神戸赤十字病院 顧問 医療法人敬愛会 西宮敬愛会病院 院長
顧問	中村 肇	阪神北広域救急医療財団 前理事長
	藤原 久義	兵庫県立尼崎総合医療センター 名誉院長

# 会員病院紹介

## 兵庫県立 ひょうごこころの医療センター



病院長 田中 究



### 1. 概要と沿革

当センターは、昭和12年4月に開設された長い歴史をもつ、兵庫県唯一の公立単科精神科病院です。平成29年4月に「老人精神科」を新設したことなどにより、児童、思春期から成人、老年まで幅広い年齢層の患者に医療を提供することが可能となったことを機に、病院名称を当時の「兵庫県立光風病院」から現在の「兵庫県立ひょうごこころの医療センター」に改称しました。

施設の概要と沿革は次のとおりです。

#### 病院概要

名称：兵庫県立  
ひょうごこころの医療センター  
所在地：〒651-1242  
神戸市北区山田町上谷上字登り尾3  
開設：昭和12年4月  
診療科目：精神科、児童思春期精神科、老年精神科、脳神経外科、内科、歯科  
病床数：478床（精神科）  
敷地面積：78,509.13㎡  
延床面積：22,805.10㎡

### 沿革

- 昭和12年4月 県立精神病院光風寮を開設
- 昭和35年10月 県立病院光風寮に改称
- 昭和39年4月 地方公営企業法の企業会計一部適用を実施
- 昭和48年4月 県立光風病院に改称
- 平成10年3月 社会復帰棟完成
- 平成14年4月 地方公営企業法の全部適用
- 平成19年10月 精神科救急医療センター開設
- 平成25年6月 児童思春期センター「ひかりの森」全面開設
- 平成28年3月 光ポトグラフィー装置を導入
- 平成29年1月 神戸市認知症疾患医療センターに指定
- 同年 3月 MRI検査装置、核医学（SPECT）検査装置を導入
- 同年 4月 県立ひょうごこころの医療センターに改称
- 平成30年11月 神戸市依存症専門医療機関・治療拠点機関（アルコール健康障害）に選定
- 同年 12月 兵庫県依存症専門医療機関・治療拠点機関（アルコール健康障害）に選定
- 令和2年8月 新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定

### 2. 基本理念と基本方針

より主体的、能動的に利用者に寄り添った質の高い医療を提供していくという思いを込めて、平成31年4月に次のとおり見直しました。

#### 基本理念

人としての尊厳を大切に、だれもが安心できる医療を提供します。

### 基本方針

1. 人権を守り、利用者に配慮した最善、最良の医療を提供します。
2. 医療の質を高め、利用者とは協働した医療を実践します。
3. 全職員の専門性を結集し、全人的医療を行います。
4. 利用者の地域での暮らし、社会参加を支援します。
5. 地域の人々の医療・介護・保健・福祉に貢献し、地域の関係機関と連携し協働します。
6. 研修、研究、研鑽を通して医療の発展に資し、優れた医療人を育成します。
7. 兵庫県の精神科医療の基幹病院として、医療水準の向上を図り、安定した病院経営に努力します。

### 3. 当院が果たす役割について

社会の変化や高齢化に伴って、精神科疾患や障害をもつ人々に対する社会や人々の認識は大きく変化し、精神科医療が対象とする疾患患者は、これまでの統合失調症や双極性感情障害などに加え、ストレスに関連した精神的不調、うつ病を中心とする気分障害、摂食障害、アルコールや薬物さらにはインターネットなどへの依存や嗜癖が増え、発達障害や認知症なども増えてきています。

当院では、そうした多様なニーズにきめ細かく対応するため、診療体制や医療機器の整備、地域連携の強化や、24時間365日の救急医療体制を整備するほか、神戸市認知症疾患医療センターの指定を受けて認知症の鑑別診断や相談、専門的治療を行っています。また、依存症治療として神戸市、兵庫県のアルコール依存症の拠点病院の選定を受け、アルコール関連問題にも携わっています。加えて、児童思春期センター「通称：ひかりの森」において発達の躓きや生きづらさ抱える児童青年期の子どものための治療を入院を含めて行っています。

今は、新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定を受け、精神疾患のある感染疑い患者及び軽症の陽性患者の受入れを行っており、県内精神

科医療の最後の砦としての役割を果たしています。

### 《病院の特徴》

#### —— 高度医療機器を活用した診療と治療 ——

平成28年にうつ病、うつ状態の診断補助に光ポトグラフィー装置を整備しました。また平成29年には認知症をはじめとする器質性障害の鑑別のためのMRI装置とSPECT装置を整備したことにより、子どもから成人、ご高齢の方まで全ての世代を対象にしたさまざまな精神疾患に、より正確な診断による上質な精神科医療を提供しています。

#### —— 兵庫県精神科救急システムの基幹病院 ——

平成19年10月に精神科救急医療センターを開設し、兵庫県精神科救急医療システムの基幹病院として24時間体制で精神科救急患者を受け入れ、医療保護入院はもちろんのこと、措置入院や応急入院となるような多様なケースに対応できる体制を整えています。

#### —— 児童思春期センター「ひかりの森」 ——

不登校、ひきこもり、虐待など、若年層のこころの問題に社会的関心が高まりつつある中、平成25年に、県内で初めてとなる入院専門治療施設として、児童思春期センター「ひかりの森」を開設し、発達障害や気分障害（うつ病）などのストレス関連障害など、入院治療を必要とする児童・思春期の精神疾患患者に対応しています。

#### —— 神戸市認知症疾患医療センター指定病院 ——

平成29年1月から神戸市より認知症疾患医療センターの指定を受け、保健・医療・福祉・介護の各機関と連携しながら、認知症の鑑別診断や専門医療相談を実施し、認知症の早期発見、診断を実施しています。また、各関係者の方を対象とした研修を実施し、人材の育成などにより、地域における認知症疾患のケア向上を支援しています。

#### —— 退院後の地域ケア ——

医師、看護師、精神保健福祉士、理学・作業療法士、臨床心理士等が連携し、訪問看護、デイケ



アなどアウトリーチ、リハビリテーションに注力しています。多職種によるチーム医療を重視し、それぞれの専門性や多様な視点を共有できる治療環境を実践しています。

#### ———— DPAT登録医療機関 ————

兵庫県では県内外における自然災害、犯罪事件及び航空機・列車事故等の大規模災害の被災者及び支援者に対し、精神科医療及び精神保健活動の支援をおこなうDPATを設置し、平常時より災害時に対応出来る体制整備を行っています。

当院ではDPATを8チーム登録しており、平成28年4月の熊本地震の際には6チームを派遣しました。

#### 4. おわりに

昨年は新型コロナウイルス感染症により、精神疾患のある軽症の陽性患者等の受入れを開始したことに伴い、一時、精神科救急を休止せざるを得ない状況になりました。また、感染防止のため十分な地域連携やプログラムが行えず、非常に歯がゆい思いも経験しました。コロナ禍という厳しい状況は続っていますが、今年は感染対策をとりながら、精神科医療に求められる多様なニーズに丁寧に応え、当院の高度な専門性を十分に発揮し、患者さまの治療や支援に活かせるように、職員一同、誠心誠意取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



CT



MRI



RI

**編集後記**

令和3年会報夏季号をお届けいたします。

会報に掲載のとおり、6月26日に開催されました第7回定時総会で第4期の役員が選出され、その後の臨時理事会で大村武久会長をはじめとする新たな体制が決定されました。

守殿貞夫前会長には、任意団体の時代から平成27年4月の一般社団法人化をはさみ、兵庫県病院協会会長の務めを13年間の長きにわたり、担っていただきました。これまでの協会への多大な貢献とご尽力に改めて深く感謝申し上げます。

このような一つの大きな節目となったこと、また、新型コロナウイルス感染症により総会規模を縮小したことから多くの会員の皆様に新体制を出来るだけ早くお知らせするため、夏季会報を通常の7月初旬より若干繰り

下げて発行することといたしました。お届けが遅くなりましたこととお詫び申し上げます。

大村新会長には急遽就任挨拶をご寄稿いただきました。また、新任理事の皆様にもご寄稿いただき、大西新副会長にも加筆をお願いしました。ご多忙のところ今回ご寄稿いただきました役員の皆様に感謝申し上げます。

会長挨拶のとおり、困難、課題が山積する状況ではありますが、新体制のもと当協会の活動が皆様にとりまして有用なものとなるよう努力してまいりますので、ご指導、ご鞭撻よろしく願いいたします。

令和3年7月

(一社) 兵庫県病院協会 事務局 記

